

農業で武雄を盛り上げる

「こんな難しい時代ですよ。だから、あらゆる挑戦が自分の肥やしです。」そう語るのは、一見穏やかだが向上心に満ちた目で、パクチー栽培に力を注ぐ北方町の若手農家、武友会のメンバーである江口竜左（えぐちりゅうすけ）さんだ。若者に勢いが無いと言われる風潮の中、同世代の仲間たちと共に、これまで知名度の無かったパクチーの栽培方法を研究して、約一年前から生産してきたのだ。

「何でパクチーを？」誰もが問いたくなるその問いには、意外な答えが返ってきた。パクチーが目的では無い、農業をきっかけにして武雄を盛り上げたい、その一つのアイデアがパクチーなのだ。野球で例えれば、山口さんのきゅうりがストリートだとすれば、武友会が勝負しているパクチーは変化球と言えるだろうか。どちらも切れのある球ならば他を差別化できる武器となる。武友会は今、その武器を掴もうとしているのだ。

武友会のメンバーである黒岩さんは、「東京や市外に販売に行く度、武雄の農園を見に来たいというお客さんが増えてきた。」という。特徴ある野菜を単に栽培・出荷するだけではなく、直接その情熱をお客さんに伝えてきたことで、自分自身も人を惹きつける農家として、他に無い唯一の価値を築きつつあるのだ。

なるほど、重鎮「きゅうり」も、新参「パクチー」も、この飽食・大量消費の時代を生き残るそれぞれの存在価値を見い出す道を模索し続けているのだ。その背景には幾多の努力の軌跡があるに違いないし、簡単に伝えることなど到底できないのだが、これが武雄の農力ではないかと、僅かだが理解出来た気がしてきた。



武雄のパクチーは、そのユニークな取組が評価され、4月中旬から国内大手野菜通販企業「OISIX」（オイシックス）にて全国通信販売が開始された。すでに取扱開始から1ヶ月で約2,000パックが販売され、購入者からは「これまでの商品は直ぐにしんなりしたが、これは新鮮。定期的に買いたい。」という声も届き、大好評だという。

武友会（たけともかい）

20～40代の若手農家で、食農教室や地産地消の推進などを中心に現在8名で活動中。左から松江佑（まつえゆう）さん、岩瀬和也（いわせかずや）さん、黒岩亮太（くろいわりょうた）さん、山下徹（やましたとおる）さん、江口竜左（えぐちりゅうすけ）さん、古川弘和（ふるかわひろかず）さん

